

EU 支部長: 松原 真実子 MATSUBARA Mamiko e-mail: leoshironeko@yahoo.co.jp

青森県八戸市出身 国際文化研究専攻修士 現在 大阪府 太成学院大学 勤務 修士論文『異文化間コミュニケーションの研究—フィードバック作用—』

この号の内容

- 1 イタリア 橋崩落、死者 39 人に 政府は運営企業の責任追及
- 2 EU 支部だより

- ・ ジェノバ
- ・ 1960 年代建設
- ・ 死者 39 人



- ・ 日よけと鎧戸
- ・ ピクニック

今年の夏は、大阪もイタリアも殺人的な暑さです。大阪では、クーラーなしでは到底生きられませんが、クーラーのない家もまだまだ多いイタリアでは、どのようにして暑さをしのいでいるのでしょうか。イタリアは湿度が低いので、直射日光を遮れば結構過ごしやすいのです。そのため、日中はベランダの日よけや鎧戸を下ろし、窓も閉めて室内を暑くしないようにしています。また、北イタリアでは、山や湖にハイキングやピクニックに行きます。レゼゴネなど有名な山もありますが、ちょっと車で走れば、すぐにピクニックに最適な丘や簡単なトレッキングコースなどもあります。湖はコモ湖です。水上観光船やボートのほか、カヤックなどを行っている人もたくさんいます。そして、日が沈み熱気が落ち着いたころ、庭で夕食をとったり、ジェラート片手に街中を散歩したりと、ゆったりとした時間が流れます。そして何より、夏の長期バカンスです。海や山に行ったり、キャンピングカーで北へ向かったりと思いつきに過ごしています。私も毎年のようにジェノバ近郊の夏の家に行き、海水浴三昧でとても楽しかった思い出があります。暑いからこそゆったり過ごすことが、夏を少しでも快適にする理にかなった習慣の1つなのだと実感しました。(松原)

イタリア橋崩落、死者 39 人に 政府は運営企業の責任追及

【AFP＝時事】イタリア北部ジェノバ(Genoa)で高速道路の高架橋が崩落した事故で、生存者の捜索活動が続けられる中、死者数が 39 人に増えたことが分かった。また同国政府は、高速道路の運営を担当する企業への責任を追及している。

今回の事故は 14 日、暴風雨に見舞われた同国北部の港湾都市ジェノバで発生。「モランディ(Morandi)」と呼ばれる橋が広範囲にわたって崩壊し、車約 35 台と複数のトラックが 45 メートル下の線路に落下した。

同国の市民保護局によれば、少なくとも 39 人が死亡、15 人が負傷した。マッテオ・サルビーニ(Matteo Salvini)内相は 15 日、犠牲者には 8 歳および 12 歳と 13 歳の子どもたちが含まれていると発表。多くの人々が現在も行方不明だという。

また、同国在住のチリ人 3 人、さらにフランス人 3 人が死亡したと、両国の外交当局が明らかにしている。

今回の惨事では、数十年間にわたって橋が抱えていた構造上の問題、および高速道路の運営を担当してきた民間企業「アウトストラデー・イタリア(Autostrade per l'Italia)」に対し、厳しい目が注がれている。

政府は同社との契約を破棄し、1 億 5000 万ユーロ(約 190 億円)の罰金を科す意向を表明。15 日朝に現地入りしたルイジ・ディマイオ(Luigi Di Maio)副首相は到着に先立ち、この悲劇は「避けることができたはず」と述べ、「アウトストラデーはメンテナンスを行うべきだったが、しなかった」と話した。

その一方、消防隊員のエマヌエレ・ジフィ(Emanuele Giffi)さんは AFP の取材に対し、夜間に 3 人の遺体が収容されたと明かした。「生存者がいるかどうか分からない。だが捜索するのが私たちの仕事だ」と語った。【翻訳編集】AFPBB News 2018 年 8 月 15 日 22 時 27 分

EU 支部だより -暑さをしのぐ工夫-

